試料の取り扱い・実施方法について

＜尿定性検査＞

試料

・試料 A
・試料 B

試料の取り扱いについて

溶解するまでは 2～8℃に保管して下さい。
溶解後は 30 分以内に全項目の測定を終了して下さい。

試料の溶解方法

試料は開栓前に容器を軽く叩いて、容器の底面に粉末を集めて下さい。
室温に戻した精製水をホールピペットまたは検定済みノック式ピペットで正確に **10ml** 加え、
10 分間室温に静置後、静かに転倒混和し、内容物を完全に溶解させて下さい。

測定時の注意

各項目の測定は、完全に溶解後、試料を試験管などに移して直ちに日常検査で主としている方法で実施して下さい。
試験紙を直接尿に浸した場合は、試験紙成分の試料への溶出を防ぐため、測定は 2～3 回にとどめて下さい。

結果入力方法

試料 A、試料 B の「尿蛋白定性」、「尿糖定性」、「尿潜血定性」のそれぞれの結果について、「定性値」、「半定量値」、「報告値」を選択肢より選んで入力して下さい。

結果入力時の注意

①シーメンス HCD の試験紙をお使いのご施設

尿潜血検査はヘモグロビン濃度を併記していないため、下記のように選択下さい。

・測定結果(定性値)：(±)　⇒　半定量値・報告値：0.03mg/dL
・測定結果(定性値)：(1+)　⇒　半定量値・報告値：0.06mg/dL
・測定結果(定性値)：(2+)　⇒　半定量値・報告値：0.15mg/dL
・測定結果(定性値)：(3+)　⇒　半定量値・報告値：0.75mg/dL

②シスメックスのユリシス 2400、ミディトロンの試験紙をお使いのご施設

尿糖検査は下記のように選択下さい。

・測定結果：300mg/dL　⇒　半定量値・報告値：250mg/dL

尿潜血検査は下記のように選択下さい。

・測定結果：25 個/μL および 20 個/μL　⇒　半定量値・報告値：0.06mg/dL

・測定結果：150 個/μL　⇒　0.15mg/dL

③アークレイの試験紙をお使いのご施設

尿蛋白検査は下記のように選択下さい。

・測定結果：20mg/dL　⇒　半定量値・報告値：30mg/dL

尿潜血検査は下記のように選択下さい。

・測定結果：0.10mg/dL　⇒　半定量値・報告値：0.15mg/dL

・測定結果：0.50mg/dL　⇒　半定量値・報告値：0.75mg/dL

＜便潜血検査＞

試料

- 試料①：粉末試料①（黄色の帯)、溶解液①（黄色)、試料調製用攪拌棒
- 試料②：粉末試料②（赤色の帯)、溶解液②（赤色)、試料調製用攪拌棒
- 試料③：粉末試料③（青色の帯)、溶解液③（青色)、試料調製用攪拌棒
- 参考試料①：固形試料 A、B、C
- 参考試料②*：液体試料①、②

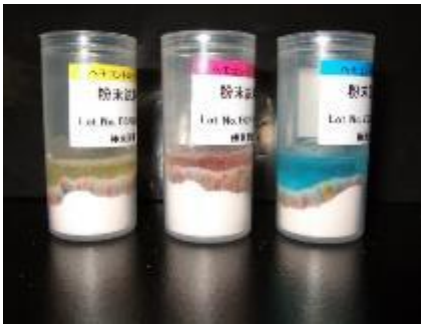
*参考試料②は機器メーカー：栄研化学使用施設のみ測定して下さい。

試料調整方法

＜試料①～③＞

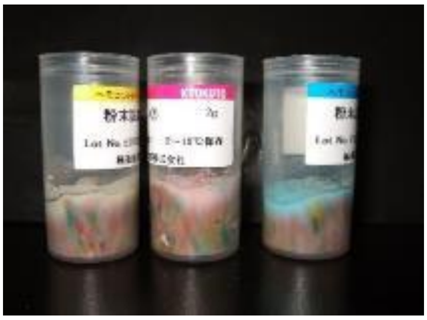
1. 粉末試料バイアルのキャップ裏に付着した粉末試料をよく叩き落として下さい。

2. 粉末試料①にピペット等を用いて溶解液（①黄色）を全量加え、3 分間静置します。



粉末試料に溶解液（①黄、②赤、③青）を加えた状態。

3 分間静置



3 分間経過した状態

3. 試料調整用拌攪棒で添加色素が均一になるまで充分に混合します。
   キャップをして 30 分間静置します。

※容器の上面、側面、底面からも混和を確認して混合試料全体が均一色になること。
試料全体が均一になるよう充分に混和してください。

4.　30 分経過後、もう一度よく混合します。

5.　粉末試料②には溶解液②を、粉末試料③には溶解液③を加え、試料①と同様に試料を調整します。

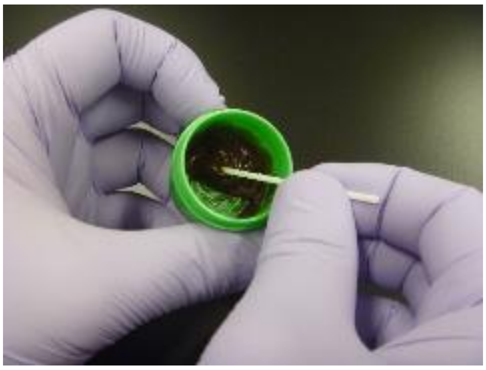
6.　ご使用になる検査試薬の説明書に従い、**検体と同様に採便容器に採取してください。**

注)・採取前には、採便容器から採便棒を抜き取り、**採便棒についた液を拭き取ってください注)。**
・採便後、**採便棒の最先端部分(溝のない部分)に付いた便は、拭き取って液体の中に戻してください。**

＜参考試料①：A、B、C＞

1.　測定前に**1 時間程度、**室温に放置して下さい。(凍結品のため室温放置により融解させる。)

2.　解凍後、そのままではヘモグロビン濃度が不均一のため、測定に用いる採便棒以外のものでそれぞれ混ぜて下さい。



2.　ご使用になる検査試薬の説明書に従い、**検体と同様にそれぞれ採便容器に採取してください注)。**

注)・採便前には、採便容器から採便棒を抜き取り、**採便棒についた液を拭き取ってください。**

・採便後、**採便棒の最先端部分(溝のない部分)に付いた便は拭き取って、液体の中に戻してください。**

・擬似便の溶解を促すために、採便容器を縦に強く振ってください。

(4 回/秒の頻度で 30 秒間、計 120 回以上強く振ることを推奨します。)

＜参考試料②：液体試料①、②＞

1.　液体試料ですので、試料調整の必要はありません。

測定方法

＜試料①～③、参考資料①：A、B、C＞

1)便中ヒトヘモグロビン定性検査の参加施設

⇒検査試薬の説明書に従い検体と同様に採便容器に採取し検査を実施してください。

2)便中ヒトヘモグロビン定量検査の参加施設

⇒①採取後充分に**転倒混和（20 回以上）**してください。

②**30 分間放置**します。

③放置後、**更に充分に転倒混和（20 回以上）後**、測定してください。

＜参考資料②：液体試料①、②＞

1. ご施設で使用されているコントロール試料の測定方法と同様の方法にて測定して下さい。

測定時の注意

試料調整後は、試料調整当日に採便容器に採取し、30 分以上放置後、当日中に測定を実施して下さい。

結果入力方法

1)**便中ヒトヘモグロビン定性検査の参加施設**

…試料 1~3、試料 A~C についてそれぞれ「定性値」を選択肢より選んで入力して下さい。

2)便中ヒトヘモグロビン定量検査の参加施設

…試料 1~3、試料 A~C についてそれぞれ「報告値」、「換算値注 1」を数字で入力して下さい。「報告単位」も入力して下さい。注 1)換算値については下記の**結果入力時の注意**を参考にして下さい。

栄研化学の機器使用施設

：液体試料①、②について測定した結果、「報告値」を数字で入力し、「報告単位」もご入力下さい。

栄研化学以外の機器使用施設

：液体試料①、②について測定する必要はありません。ただし、「直近のコントロール試料測定値(Low)・(High)」、「直近のコントロール試料測定範囲(Low)・(High)」、「直近のコントロール試料中央値(Low)・(High)」を数字で入力し、「報告単位」もご入力下さい。

結果入力時の注意

便中ヒトヘモグロビン定量検査の参加施設は、各施設使用機器メーカーや、採取容器、緩衝液、採便量が異なるため、μg/g 便に換算して換算値も報告してください。

＜換算例＞　採便量 10mg、希釈液 2ml の場合

測定値：　**A　ng/ml**　→　**換算値**：　**0.2×A　μg/g 便**

⇒1ml あたりの採便量は 5mg であり、1g 便当たりに換算するには 200 倍する。

測定単位を ng からμg に変えるため、1/1000 倍する。

＜フォトサーベイ＞

設問 1 ～10 について各設問文をよく読み、各設問の写真に見られる尿沈渣成分・髄液成分について最も考えられる回答を選択肢から選んで下さい。なお、尿沈渣成分の判定は「尿沈渣検査法 2010」もしくは「医学検査 第 66 巻 2017 J-STAGE-1 号 尿沈渣特集」に、髄液成分の判定は「髄液検査技術教本」に準拠して下さい。

回答時の注意点

各設問に用意された選択肢以外の回答は不正解とします。

回答がわからない場合、「わからない」を選択して下さい。各設問の回答記載が無い場合は不正解とします。

＜アンケート＞

尿定性検査、便潜血検査における検体数・使用機器メーカー等のアンケートへの回答にご協力下さい。

尚、統計資料には初回報告の結果、数値を用いますので

誤入力には十分注意して下さい。

尿定性検査、便潜血検査、一般フォトサーベイの評価判定 C の施設には速やかに報告いたします。
又、試料の再送付による再検査及び誤差要因の追及に御協力願います。
今年度より、回答は JAMT-QC にて入力を行って頂きますので、**各施設で必ず控えを取って頂くよう、お願い致します。締め切り後の回答の入力・変更は一切できなせんので、ご了承下さい。**